

2006 年度

<p>科目名</p> <p>文化財学研究指導及び演習（文化財形態論）</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>研究科文財(前)1 回生 研究科文財(後)1 回生</p>	<p>担当者</p> <p>広岡 公夫</p>
<p>授業テーマ</p> <p>考古地磁気学の理論と実際を習得し、その応用としての考古地磁気永年変化を用いた遺構の年代推定を体験する。</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>岩石や地層、焼土遺構が保持する残留磁化は過去の地球磁場変動を記録している。その変動を用いた遺構・遺物の年代測定法（考古地磁気年代測定法）の原理と実際を知り、年代の推定を行う。また、他の自然科学的年代測定の手法で得られた年代値の精度の判定や評価ができる力を養う。</p>		
<p>評価方法</p> <p>講義と演習（実験）方式で授業を進め、演習・実験での態度、測定データの質・量と発表の内容、レポート等によって評価する。</p>		
<p>テキスト</p> <p>なし</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>考古地磁気年代推定法 堆積学辞典</p>	<p>著者</p> <p>中島正志・夏原信義 堆積学研究会 編</p>	<p>出版社</p> <p>ニュー・サイエンス社 朝倉書店</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 考古地磁気学とは何か</li> <li>2. 地磁気とその変動</li> <li>3. 地磁気観測の記録と磁石の歴史</li> <li>4. 色々な残留磁化獲得のメカニズム</li> <li>5. 残留磁化を担う鉱物</li> <li>6. 考古地磁気永年変化</li> <li>7. 炉跡・窯跡等の焼土遺構の考古地磁気</li> <li>8～10. 考古地磁気試料の採取方法</li> <li>11～13. 考古地磁気試料の成形</li> <li>14～18. 考古地磁気測定の実際</li> <li>19～23. 考古地磁気データの統計処理</li> <li>24～28. 考古地磁気年代推定の実際</li> <li>29～30. まとめ</li> </ol>		